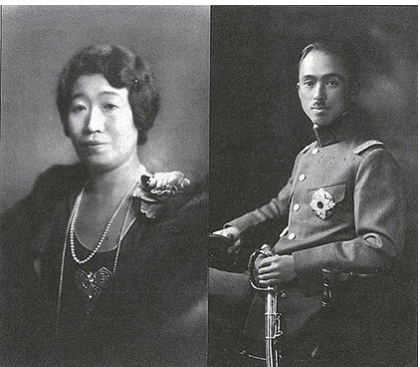


PURE GOLD80s

いよいよゴールドラッシュの第一幕が開ける。

80年代 若い二人は人生の扉を開けようとしていた



小吉から連絡を受けてしばらくするとキタハラの周辺が俄かに慌ただしくなった。

小吉の電話から三日後アポを入れてきたのは若い映像ディレクターだった。

スポーツ店の営業時間が終わり、表看板の電灯を落とすと彼は現れた。

初めまして イザワユタカと言います。

いかにもクリエイティブを仕事にしているようなラフな格好をしているが、決してラフ過ぎず、適度な清潔さを印象として与えている。

スギヤマが起用した笑顔に印象が残るまだ若い映像作家だった。

小吉から連絡を受け、小吉がキャスティングしたアーティストに対し、イザワが連絡を入れているということだった。

実は私ももちやが大好きで、特に手塚治虫さんの鉄腕アトムを集めています。

どこかで見た面影だなとキタハラは記憶を辿るとイザワがハンティングワールドのシオルダーバックから一冊の雑誌を取り出した。

その雑誌はキタハラも登場していたので、アトムコレクターとしてイザワが登場していたのを覚えていたのだ

初対面のぎこちなさがその雑誌で消えた。

イザワさん 覚えているよ、あのアトムのペダルカーはいいね。ボクは持っていないな。

キタハラはイザワがコレクションしていたペダルカーを話題にした。

私も同じ誌面にキタハラさんが出ていて、その同じ雑誌でボクのコレクションを紹介してもらい すごく光栄でした。

コレクターとして名前が知れるようになる、このように初対面でもコレクター同士すぐに打ち解けることができるようになったことがキタハラには何より嬉しい。

しばらく コレクション談義で盛り上がった後、イザワは「ところで」と本題を切り出した。

それから約2時間、時間が経つのも忘れ、キタハラはイザワの話を夢中になって聞いた。

誰が演出し、誰が撮影して、音楽は誰で、キタハラにとって未知の世界がそこで語られていた。

もちろん プロデューサーは杉山小吉である。

そのキャスティングされた名前を言うだけでイザワは高揚している。

その高揚からもこの撮影のために小吉が集めたスタッフの凄さが伝わってきた。

「そして」とイザワは最後に撮影する場所について話し始めた。

「実はまだ撮影場所だけはまだ決定していないんです。」

キタハラもリピートする「決定していない？」

「はい 白金にある朝香宮家を予定しています。」

「予定」

「スギヤマさんがどうしてもここを使いたいとリクエストしているのですが、まだ許可が下りていません。現在 製作会社のピラミッドを通じて、政治的なチカラを使えるところから打診している最中です」

朝香宮家？

キタハラはどこかで聞いたに名称に記憶を辿る。

イザワは言葉を続けた。

「実は現在 東京都が東京都庭園美術館として開園を目指しているタイミングなため、こちら側としてはいいタイミングでもあるのですが、その反面 開園

する前に場所を使用させるのは無理だと言った反対勢力もいて、まだまとまらない状況です。」

「あの目黒にある朝香宮家の屋敷ですか？」

キタハラが想像する施設とイザワが言う東京都が東京都庭園美術館になる朝香宮が所有していた建物はどうやら同じ建物のようなようだ。

「はい あの朝香宮家の建物です。」

イザワは自慢げに胸を張った。

あんな場所で撮影するのか？キタハラは咄然とした。

朝香宮殿下は久邇宮家第八王子、妃殿下は明治天皇第八皇女として生を受けている。その殿下と妃殿下の住まいとして朝香宮邸は昭和8年（1933年）に建てられた。

朝香宮鳩彦王が住んだ屋敷はその後 本人と共に奇異な運命をたどることになる。

戦後 GHQの指令により皇籍離脱した朝香宮鳩彦王は屋敷も1974年からプリンスホテルの本社として使用された後、元の主人が出ると亡くなるのを待つように1981年に東京都に売却された。

場所は決まらないまでもその他の事案は大方決定しているようだった。

「最終的には場所が決定し次第になりますが、ゴールデンウィークあたりをスケジュールしています。これから 脚本を作成することになると思いますので、そのたたき台が出来たらもう一度伺います。」

そう言ってイザワは夜の京橋に消えていった。

続く